

<b>アゾキシストロビン・メタラキシル M 粒剤</b> <b>ユニフォーム粒剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> シンジェンタ  <b>原体メーカー：</b> シンジェンタ, シンジェンタ
<b>成分：</b> アゾキシストロビン〔ストロビルリン系 PRTR・1種〕…2.0% メタラキシル M〔フェニルアמיד系〕……………1.0% <b>その他 PRTR 該当成分：</b> 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩〔PRTR・1種〕……………1.2%	<b>性状：</b> 淡褐色細粒 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> —

### 【品目特性】……………

●浸透移行性に優れ、べと病、疫病、根茎腐敗病などに対して高い効果を示すメタラキシル M と幅広い殺菌スペクトラムを持つアゾキシストロビンのコンビネーションにより、様々な土壌病害を防除することができる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

●効果安定、被害軽減の観点から初発前に使用する。

●耐性菌の出現を防ぐため、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせ輪番で使用する。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

●ピーマン及びとうがらし類に使用する場合は、使用量・使用方法を誤ると葉が黄化する等薬害を生じるので、使用量・使用方法を厳守する。また、定植時～定植後3週間までの使用はさける。

●だいこんに使用する場合は、施設内で使用すると葉が黄化する薬害を生じるおそれがあるので、使用しない。

●ホップに使用する場合は、本剤が直接根株に触れたり、また、本剤を株の真上に散布すると、薬害を生じるおそれがあるので、株のまわりに均一に散布する。

●せり、くわい、しちとういに使用する場合には、湛水状態を保ち、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。

●トルコギョウ（水耕栽培）に使用する場合は、NFT式循環型水耕栽培施設で行う。使用に当たっては普及指導センターの指導に従い、廃液は環境中に流出しないように適切に処理する。

●あじさい（ポット・プランター等の容器栽培）に使用する場合は、最初の鉢上げ時に処理する。

●たらのきの立枯疫病に使用する場合は、発病後の散布は効果が劣るので予防的に散布する。また、幼苗や植付け直後に使用すると葉が黄化することがあるので注意する。なお、若葉利用栽培の作型には使用しない。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

●つまみ菜、間引き菜には使用しない。

●空容器は適切に処理する。

●魚類、甲殻類に影響を及ぼすので、使用時並びに使用後も注意。

●散布後は水管理に注意。



# 【適用と使用方法】 .....

作物名	適用病害名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを 含む農薬の総使用回数	メタラキシル及びメ タラキシル M を含む 農薬の総使用回数	
みょうが (茎葉)	根茎腐敗病	18kg	みょうが（花穂）の収穫30日前まで、但し、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで	2回以内	土壌表面散布	4回以内 （粒剤は2回以内、水和剤は2回以内）	2回以内	
みょうが (花穂)			収穫30日前まで	3回以内	定植前作条土壌混和又は生育期土壌表面散布	3回以内	3回以内	
しょうが					土壌表面散布			
いもち病								
葉しょうが	根茎腐敗病		収穫21日前まで					
とうがらし類 (ししとうを除く)	疫病	3g/ 株	収穫前日まで	1回	株元散布	1回	1回	
ししとう				3回以内		3回以内	4回以内 （粒剤は3回以内）	4回以内 （種子への処理は1回以内、は種後は3回以内）
ピーマン						4回以内 （粒剤は3回以内、水和剤は1回以内）		
パセリ		12kg	収穫21日前まで					
かぶ こまつな	白さび病	9kg	は種前	1回	全面土壌混和	3回以内 （粒剤は1回以内、水和剤は2回以内）	2回以内 （種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内）	
チンゲンサイ タアサイ			定植前					
みずな			は種前又は定植前					
にんじん	しみ腐病	9～18kg	は種前					
だいこん	白さび病	6～9kg						
		6kg						
いちご	疫病	10kg	定植時		作条土壌混和	8回以内 （苗床では4回以内、本圃での土壌混和は1回以内、本圃での散布は3回以内）	5回以内 （種子への処理は1回以内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混和は1回以内）	

作物名	適用病害名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを 含む農薬の総使用回数	メタラキシル及びメ タラキシル M を含む 農薬の総使用回数
ほうれんそう	べと病	9kg	は種前	1 回	全面 土壌混和	1 回	2 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内, 土壌混和 は 1 回以内)
せり	葉腐病	3kg	収穫 21 日前 まで		湛水散布	5 回以内 (粒剤は 1 回以内, 水 和剤は 4 回 以内)	2 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内, は種後 は 1 回以内)
ねぎ	白絹病 べと病 さび病	9kg	土寄せ時 但し, 収穫 90 日前まで		株元土壌 混和		5 回以内 (種子への処 理は 1 回以内, 土壌混和は 1 回以内, 散布 は 3 回以内)
べにばないんげん	茎根腐病	1g/ 株	定植時		株元散布	1 回	1 回
ごぼう	黒あざ病	18kg	は種前		作条土壌 混和		
くわい	茎腐病	3kg	収穫 21 日前 まで	2 回以内	湛水散布	2 回以内	2 回以内
オクラ	苗立枯病	9～18kg	は種前	1 回	全面土壌 混和	6 回以内 (全面土壌 混和は 1 回 以内, 散布 は 2 回以内, 株元散布は 3 回以内)	5 回以内 (種子への処 理は 1 回以内, は種前の土壌 混和は 1 回以 内, は種後は 3 回以内)
	疫病	9kg	収穫前日まで	3 回以内	株元散布		
たらのぎ	立枯疫病	20kg	収穫終了後 (苗の場合は 植付後)～落 葉前但し, 収穫 60 日前 まで	2 回以内	土壌表面 散布	2 回以内	2 回以内
こんにゃく	根腐病	9kg	植付時	1 回	植溝土壌 混和	2 回以内 (植付時ま たは培土時 の処理は合 計 1 回以内, 培土後は 1 回以内)	2 回以内 (植付時ま たは培土時 の処理は合 計 1 回以内, 培土後は 1 回以内)
			培土時		株元散布		
			収穫 30 日前 まで				
	白絹病		培土時				
ホップ	べと病	10～ 20g/ 株	株ごしらえ時 ～選芽期			1 回	1 回

作物名	適用病害名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アキシストロピンを 含む農薬の総使用回数	メタラキシル及びメ タラキシル M を含む 農薬の総使用回数
た ば こ	疫病	6～9kg	大土寄期	1 回	株元散布	2 回以内 (粒剤は 1 回以内, 水 和剤は 2 回 以内)	1 回
		6kg	移植前		作条土壌 混和		
しちとうい	べっこう病	3kg	生育期	2 回以内	湛水散布	2 回以内	2 回以内
花 き 類・ 観 葉 植 物	立枯病 (リゾクトニア菌)	18kg	定植時又は 生育期	3 回以内	土壌表面 散布	5 回以内	4 回以内 (但し生育期 は 3 回以内)
トルコギキョウ (水耕栽培)	根腐病	0.25g/ 株	定植時	1 回	株元散布		
あじさい (ポット・ プランター等 の容器栽培)	茎根腐病	土壌 1 ℓ 当り 0.25g	鉢上げ時		土壌混和		